

| 受理番号        | 受理年月日  | 件名及び要旨   | 提出者                             | 紹介議員氏名         | 付託<br>委員会名 | 議決結果 |
|-------------|--------|--|---------------------------------|----------------|------------|------|
| 26年<br>第12号 | 26.9.1 | <p>集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求める国への意見書提出のための請願</p> <p>私たち日本の母親・女性たちは、赤紙（召集令状）1枚で、夫や息子、恋人が戦場に送られ、いのちを絶たれ、生活が壊された無念の思いから、68年前、「戦争放棄・主権在民・基本的人権の尊重」をうたった日本国憲法ができたことを心から歓迎した。</p> <p>1954年、アメリカはビキニ環礁で水爆実験を強行、死の灰を浴びた第5福竜丸の乗組員が亡くなり、広島・長崎に次ぐ3度目の被曝に、日本中のお母さんたちが怒り、世界母親大会を開催させた。「死から生命を守り、憎しみから友情を守り、戦争から平和を守るために、母の名において結び合い、行動しましょう」の訴えから、「生命を生まだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」ということばが、その大会以来60年間、母親大会のスローガンとなって、草の根に広がっていった。こんにちまで、私たちは、世界でも数少ない「戦争放棄の憲法」を厳守し、子どもたちを戦争から守り抜いてきた。</p> <p>今、安倍首相は、憲法9条の解釈を変え、「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定し、「日本が攻撃されていなくても、アメリカと一緒に」戦争する国にしようとしている。集団的自衛権行使に踏み出せば、日本の法体系は根本から覆され、民主主義の破壊につながっていく。</p> <p>昨年末、特定秘密保護法も強行採決された。何が秘密事項かわからないまま、国民は言論の自由を奪われ、メディアも自主規制し、デモをするとテロ行為とされるような暗黒社会になってしまう。</p> <p>私たちは、憲法9条を壊し、日本を海外で戦争する国へと作り変える集団的自衛権行使容認は、断じて許すことはで</p> | 第54回茨城県母親大会実行委員会 実行委員長<br>大橋 詔子 | 大内 久美子<br>鈴木 聡 | 総務企画       | 不採択  |

きない。よって下記の事項を請願する。

**【請願事項】**

- 1 集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求める国への意見書を提出すること